

特別支援学級の設えについて

- ★ 特別支援学級は計画の人数に合わせて、広すぎないような計画を期待する。
- ★ 特別支援学級の計画は、過剰な設えではなくシンプルに計画されることを期待する。
- ★ 間仕切りは、少なくとも年度ごと、可能であれば年度途中でも必要に応じて変更できる設えで、天井まで閉ざされている計画を期待する。

また、教室外登校等にも利用を兼ねられることを期待する。

- ★ 配置は心理的距離ができてしまうことを避けるため特別支援学級だけを集約するのではなく、また、受験時の配慮に「洋式トイレまたはバリアフリースペースに近い試験室で受験」というものがある。これは肢体不自由に対する配慮事項であるが、肢体不自由児特別支援学級の設置も見据えて、トイレの近くに配置することも望ましい。建物の端に寄せた計画を期待する。
- ★ 視覚から得る刺激を減らす設えを計画することを期待する。
- ★ 黒板横の掲示物などを授業中はロールスクリーン等で隠せるような設えの計画を期待する。
- ★ 室内は単色の計画で、備品はナチュラル色で計画することを期待する。
- ★ 照明は視覚の過敏や注意力へ配慮し、調光式で照度を調整できる計画を期待する。
- ★ 聴覚の過敏や注意力へ配慮し、遮音性が高い教室や設えの計画を期待する。
- ★ 外部に面した所は遮音性・遮光性のあるロールスクリーン等の設えの計画を期待する。
- ★ 窓ガラスはすりガラス状と透明ガラスを切り替えられるような設えの計画を期待する。

例) 授業中は曇りガラス、休み時間は透明ガラスにできる等。(参考: 六甲ライナー「瞬間くもりガラス」)

- ★ 一人になれる空間（DENスペースやカームダウン等の設え）があることが望ましい。

ただし、全ての部屋に必要とは考えない。

- ★ 教室外登校の教室（空間）を計画することを期待する。